



令和 6年 1月31日

岩倉市議会

議長 関戸郁文 様

報告者名 堀江珠恵

行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年1月29日（月）
- 2 研修先 江南市立布袋小学校
- 3 復命事項
別紙のとおり

～江南市立布袋小学校行政視察～

【行政視察目的】

教職員の働き方改革により児童への対応、児童や保護者は変わったのか？

【質問事項】

① 業務改善に至った経緯は？

校長が就任した当時は、学級崩壊が4クラス中2クラス。

問題のある児童は、学年で均等振り分けをされていた。

不登校児童は40人。毎日クレームの電話が鳴りっぱなしであった。

布袋小学校の目指す学校像が昔からあり、それには程遠かった。

- ・児童にとって学びたくなる学校
 - ・保護者にとって通わせたい学校
 - ・教職員にとって勤めたい学校
- } 三位一体である

先生が疲労でゆとりがなかった。

② 何が一番早く取り入れやすく、何が一番取り入れるまでに時間がかかったか？

取り入れやすかったのは、5限までの授業にして、一斉下校。年間の授業時間はクリアされている。

時間がかかったのは、地域や保護者、教職員の意識が変わること。下校は当たり前で教員が行っていた。宿題をなくすことにも、保護者からの抵抗があったが、インプットとアプトプットをする事を行っており、徐々に理解されていった。

③ 児童との関わる時間は増えたのか？

増えたとし、中身の濃い内容に変わっていった。

④ 自宅での業務は無くなったのか？

アンケートなどを行っているわけではないため、わからない。

しかし、先生自身がマネジメントをするようになり、時間の作り方が上手になった、家族の時間も持てるようになり、業務を負担と感ずることは少なくなった。

⑤ 先生の業務の中で一番負担が大きかったのは何か？その負担が大きかったことに対しては、改善されたのか？

生徒指導より保護者の対応が大きかった。来年度よりスクールロイヤーも入ることにな

る。学級編成にも気をつけた。

【考察】

保育園や幼稚園の時期と違い、どうしても学校は見えづらいものになっていた。

しかし、保護者も学校任せになっていた傾向がある。

学校とはこうあるべきだという固定概念に縛られていたことにより、戦後からずっと教育体系は変わらずにきている。お互いにやってほしいではなく、協力してやろうという意識が必要である。岩倉市でも「チーム学校」に向けた取り組みをあげている。そこには、保護者も巻き込みながらやっていく必要があり、通っている児童生徒の親だけではなく、卒業した保護者も卒業しても関わりたい人もいる。線引きをせずにすることで、携わりやすいのではないかと思われる。また、学校のホームページも親に見てもらえるような工夫は必要である。